

平成22年度
草津市のまちづくりについての
市民意識調査結果報告書

平成23年3月
草津市

目 次

1. 調査概要	1
2. 調査結果	2
(1) 回答者属性	2
① 性別	
② 年齢	
③ 居住年数	
④ 転入歴	
⑤ 居住地	
(2) 基本方針別にみる満足度評価	5
① 「人」が輝くまちをつくるための基本方針	
② 「安心」が得られるまちをつくるための基本方針	
③ 「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針	
④ 「活気」があふれるまちをつくるための基本方針・行財政マネジメント	
(3) 基本方針別にみる重要度評価	9
① 「人」が輝くまちをつくるための基本方針	
② 「安心」が得られるまちをつくるための基本方針	
③ 「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針	
④ 「活気」があふれるまちをつくるための基本方針・行財政マネジメント	
(4) 基本方針別にみる満足度と重要度	13
① 「人」が輝くまちをつくるための基本方針	
② 「安心」が得られるまちをつくるための基本方針	
③ 「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針	
④ 「活気」があふれるまちをつくるための基本方針	
⑤ 行財政マネジメントのための基本方針	
(5) まちの住み心地や日常の生活行動	15
① 住環境評価	
② 定住意向	
③ 日常の行動	

1. 調査概要

【調査目的】

平成 22 年度から平成 32 年度を計画期間とする第 5 次草津市総合計画の確実な進捗管理を行っていくため、計画期間中の各年度末での市民の意向を把握するために実施した。

【調査対象者】

市民 3,000 人

【選定方法】

住民基本台帳及び外国人登録原票の 18 歳以上の者から、年齢、居住地域の 2 段階による層化無作為抽出とした。

【抽出条件】

抽出基準日：平成 23 年 3 月 1 日

【調査方法】

調査は無記名とし、平成 23 年 3 月 2 日（水）から 3 月 16 日（水）を調査期間として、郵送により実施した。

【回収状況】

有効回答数 969 件、有効回答率 32.3%を得た。

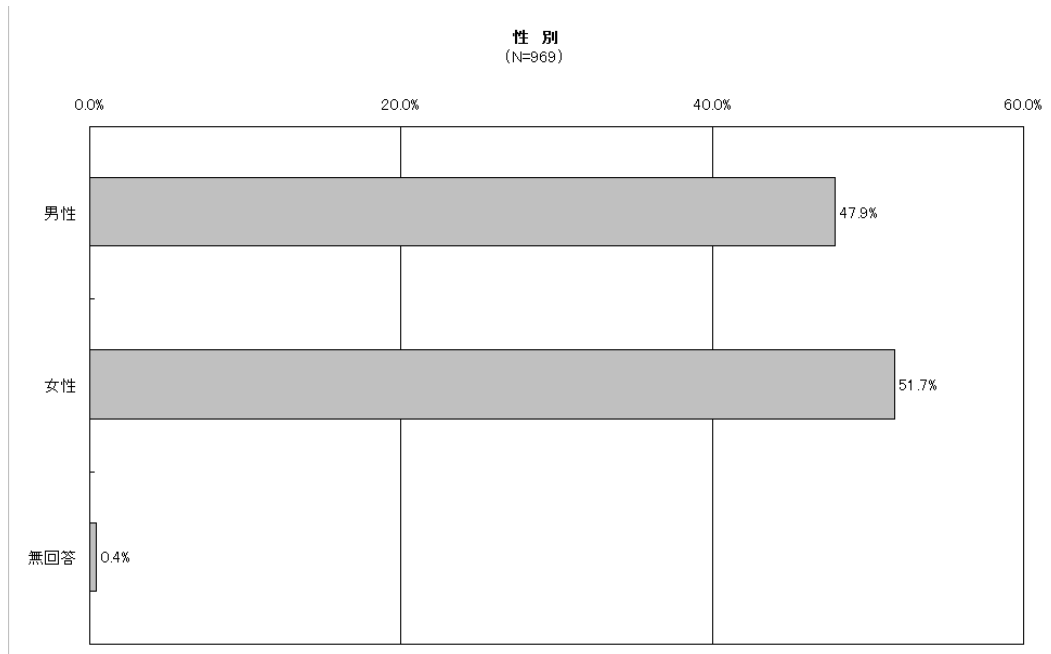
調査結果の表記について：百分率については、それぞれの調査の有効回答数 (N)、あるいは当該設問の回答者数 (n) を基数として算出している。小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、それぞれの数字の合計が必ずしも 100.0%にならない。

2. 調査結果

(1) 回答者属性

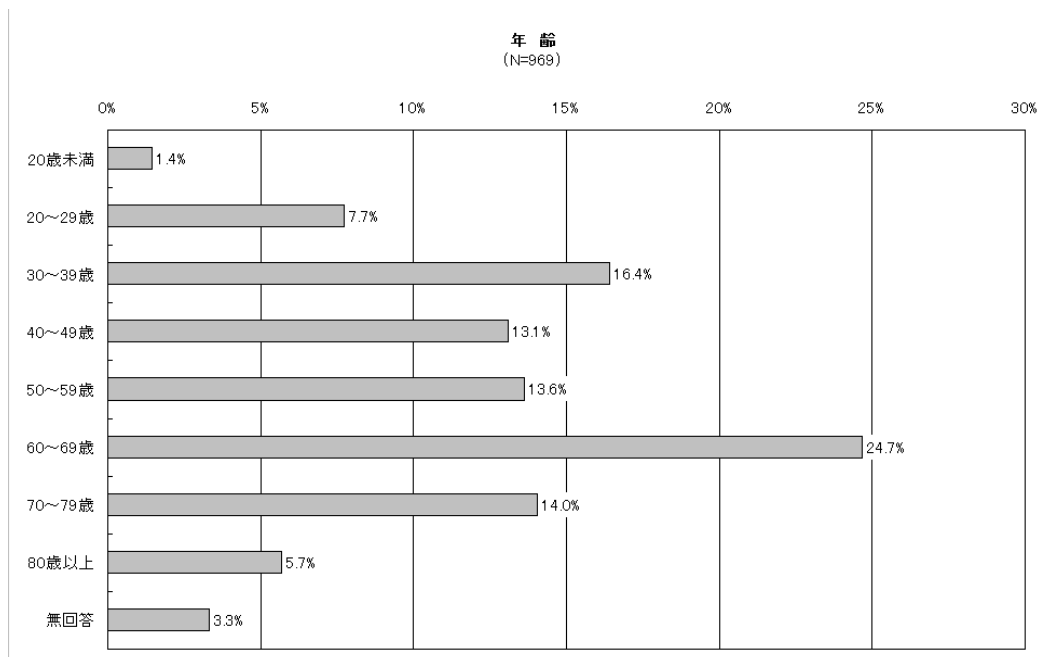
① 性別

「男性」が47.9%、「女性」が51.7%となっている。



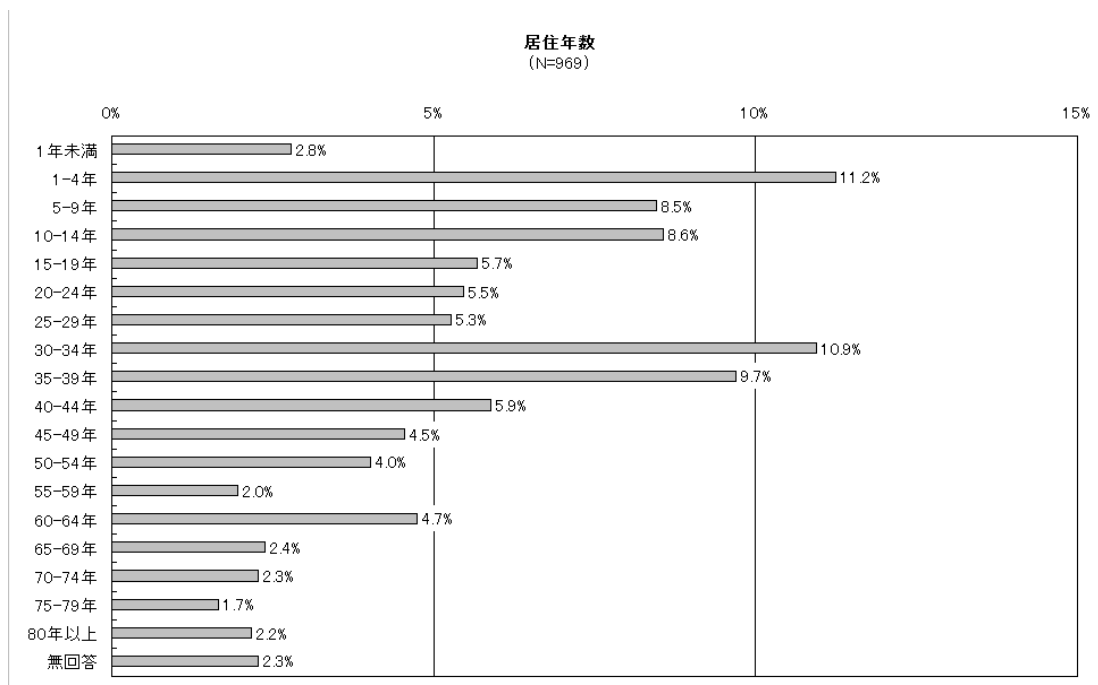
② 年齢

「60-69歳」が最も多く24.7%、次いで「30-39歳」が16.4%、「70-79歳」が14.0%となっている。



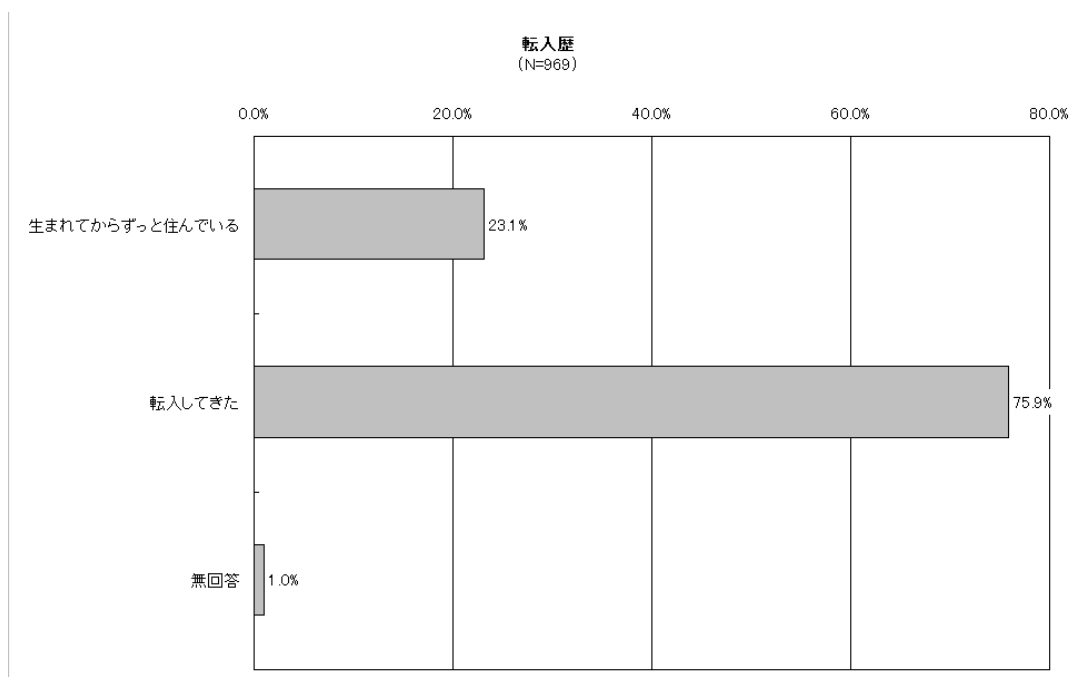
③ 居住年数

「1-4年」が最も多く11.2%、次いで「30-34年」が10.9%、「35-39年」が9.7%となっている。



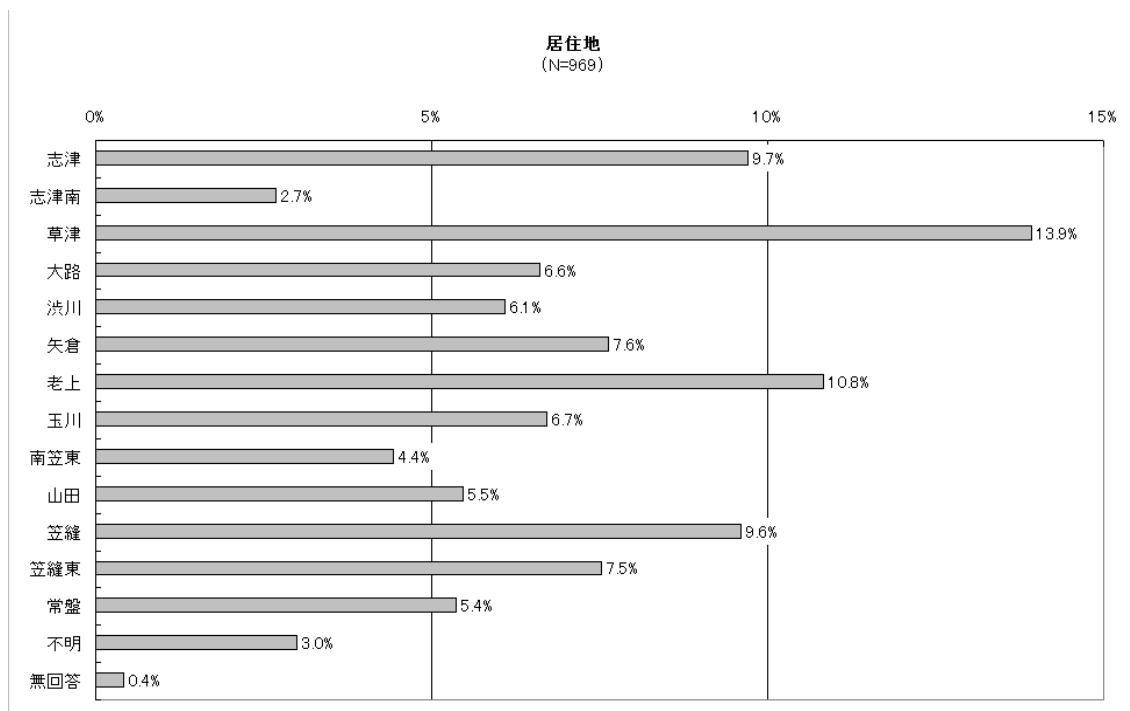
④ 転入歴

「生まれてからずっと住んでいる」が23.1%、「転入してきた」が75.9%となっている。



⑤ 居住地

「草津」が最も多く 13.9%、次いで「老上」が 10.8%、「志津」が 9.7%、「笠縫」が 9.6% などとなっている。



(2) 基本方針別にみる満足度評価

①「人」が輝くまちをつくるための基本方針

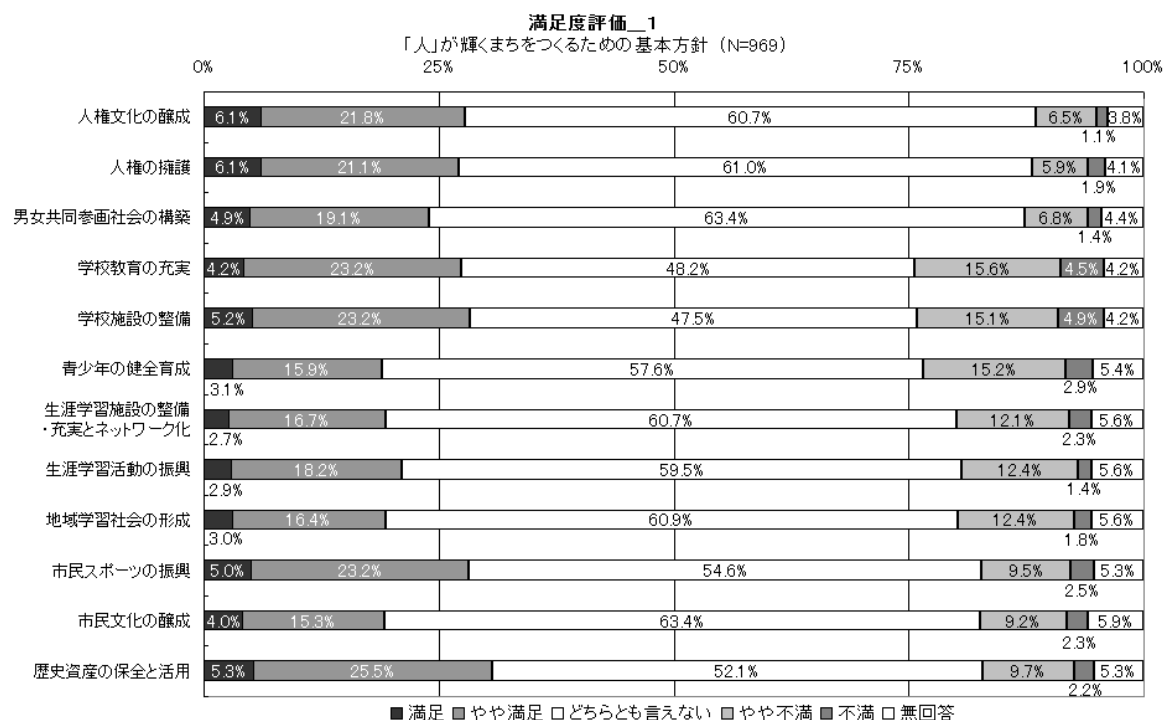
「満足」が最も多いのは、「人権文化の醸成」「人権の擁護」で6.1%、次いで「歴史資産の保全と活用」が5.3%となっている。

「やや満足」が最も多いのは、「歴史資産の保全と活用」で25.5%、次いで「学校教育の充実」「学校施設の整備」「市民スポーツの振興」が23.2%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは、「男女共同参画社会の構築」「市民文化の醸成」で63.4%となっている。

「やや不満」が最も多いのは、「学校教育の充実」で15.6%、次いで「青少年の健全育成」が15.2%となっている。

「不満」が最も多いのは、「学校施設の整備」で4.9%、次いで「学校教育の充実」が4.5%となっている。



②「安心」が得られるまちをつくるための基本方針

「満足」が最も多いのは、「母子保健等の充実」で5.1%、次いで「治水対策」で4.7%となっている。

「やや満足」が最も多いのは、「市民の健康づくり」で22.0%、次いで「母子保健等の充実」で19.6%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは、「障害のある人の社会参加の促進」で64.1%、次いで「火葬場・墓地の適正管理と公衆衛生の向上」で61.6%となっている。

「やや不満」が最も多いのは、「犯罪のないまちづくり」で20.3%、次いで「あんしんできる高齢期の生活への支援」で19.1%となっている。

「不満」が最も多いのは、「あんしんできる高齢期の生活への支援」で8.5%、次いで「犯罪のないまちづくり」で7.3%となっている。



③ 「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針

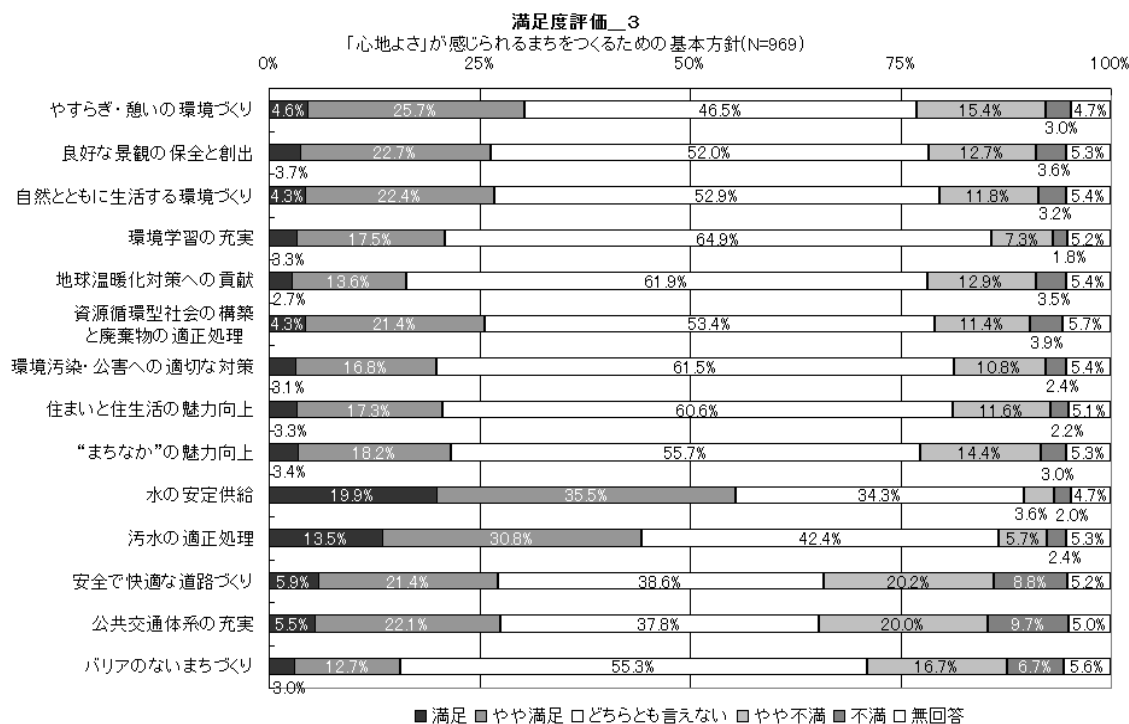
「満足」で最も多いのは「水の安定供給」で19.9%、次いで「汚水の適正処理」で13.5%となっている。

「やや満足」で最も多いのは「水の安定供給」で35.5%、次いで「汚水の適正処理」で30.8%となっている。

「どちらとも言えない」で最も多いのは「環境学習の充実」で64.9%、次いで「地球温暖化対策への貢献」で61.9%となっている。

「やや不満」で最も多いのは「安全で快適な道路づくり」で20.2%で、次いで「公共交通体系の充実」で20.0%となっている。

「不満」で最も多いのは「公共交通体系の充実」で9.7%、次いで「安全で快適な道路づくり」で8.8%となっている。



④「活気」があふれるまちをつくるための基本方針

「満足」が最も多いのは、「大学などを生かしたまちづくりの展開」で4.6%、次いで「市民活動の活性化」「まちづくり情報の提供の充実」で3.7%となっている。

「やや満足」が最も多いのは、「大学などを生かしたまちづくりの展開」で23.8%、次いで「地域コミュニティ活動の活性化」で16.5%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは、「水産業等の振興」で71.0%、次いで「多様な交流活動の展開」で70.8%となっている。

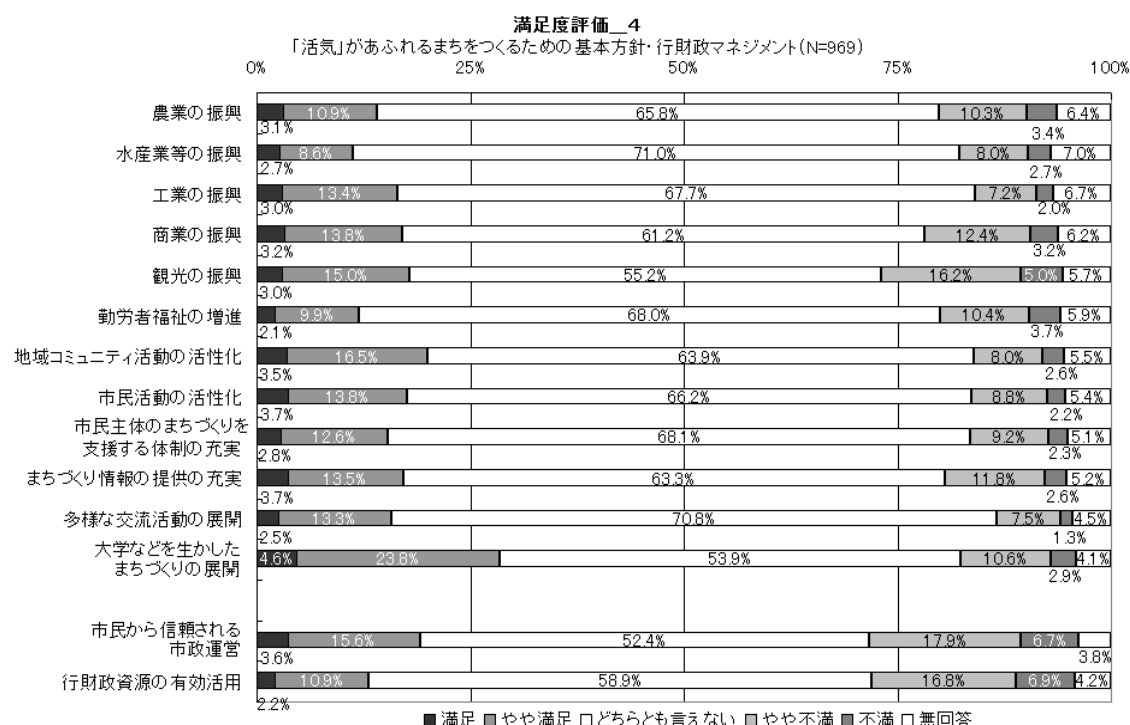
「やや不満」で最も多いのは、「観光の振興」で16.2%、次いで「商業の振興」で12.4%となっている。

「不満」で最も多いのは、「観光の振興」で5.0%、次いで「勤労者福祉の増進」で3.7%となっている。

【行財政マネジメント】

「市民から信頼される市政運営」において、「どちらとも言えない」が最も多く52.4%、次いで「やや不満」が17.9%となっている。

「行財政資源の有効活用」において、「どちらとも言えない」が最も多く58.9%、次いで「やや不満」が16.8%となっている。



(3) 基本方針別にみる重要度評価

① 「人」が輝くまちをつくるための基本方針

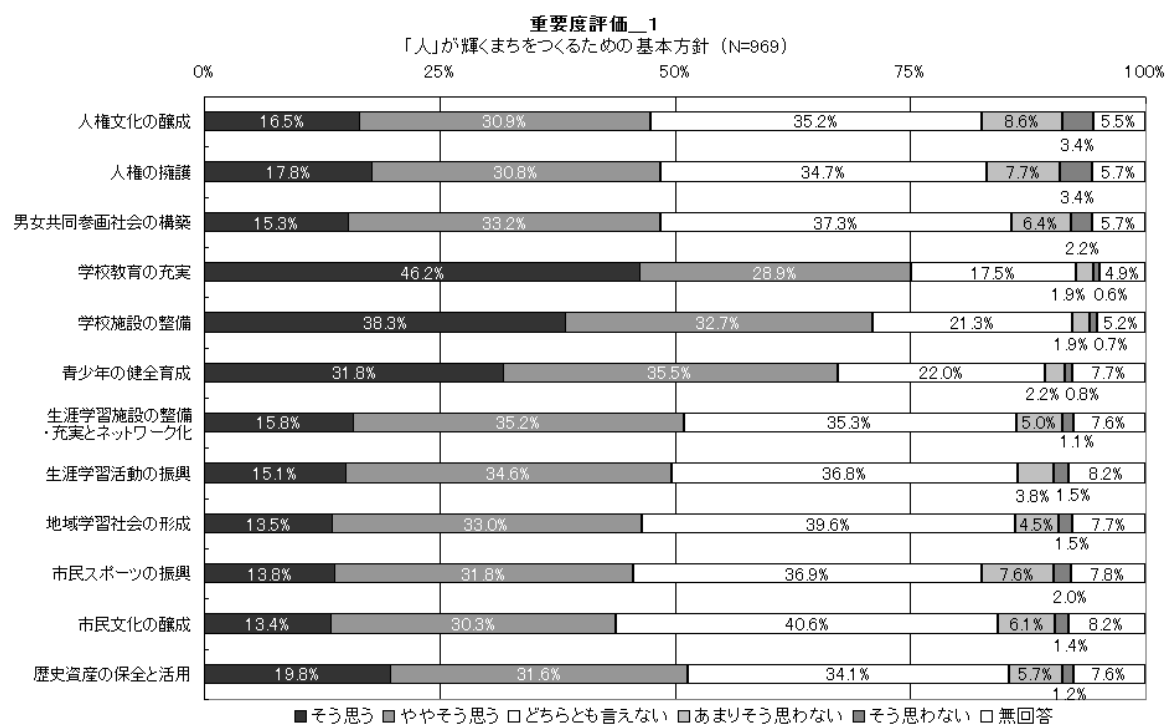
「そう思う」が最も多いのは「学校教育の充実」で46.2%、次いで「学校施設の整備」で38.3%となっている。

「ややそう思う」が最も多いのは「青少年の健全育成」で35.5%、次いで「生涯学習施設の整備・充実とネットワーク化」で35.2%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは「市民文化の醸成」で40.6%、次いで「地域学習社会の形成」で39.6%となっている。

「あまりそう思わない」が最も多いのは「人権文化の醸成」で8.6%、次いで「人権の擁護」で7.7%となっている。

「そう思わない」が最も多いのは「人権文化の醸成」と「人権の擁護」で3.4%となっている。



②「安心」が得られるまちをつくるための基本方針

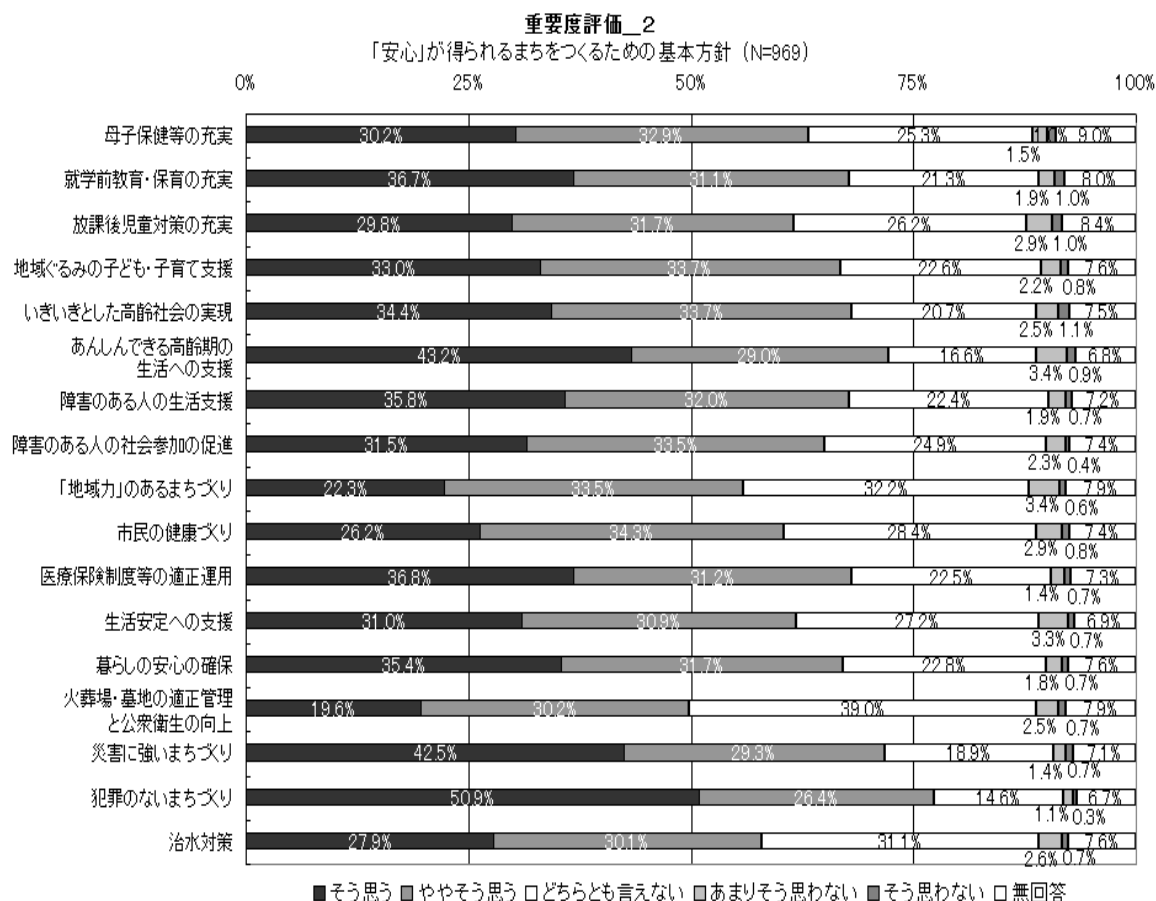
「そう思う」が最も多いのは「犯罪のないまちづくり」で 50.9%、次いで「あんしんできる高齢期の生活への支援」で 43.2%となっている。

「ややそう思う」が最も多いのは「市民の健康づくり」で 34.3%、次いで「地域ぐるみの子ども・子育て支援」と「いきいきとした高齢社会の実現」で 33.7%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは「火葬場・墓地の適正管理と公衆衛生の向上」で 39.0%、次いで「『地域力』のあるまちづくり」で 32.2%となっている。

「あまりそう思わない」が最も多いのは「あんしんできる高齢期の生活への支援」「『地域力』のあるまちづくり」で 3.4%となっている。

「そう思わない」が最も多いのは「いきいきとした高齢社会の実現」で 1.1%、次いで「母子保健等の充実」「就学前教育・保育の充実」「放課後児童対策の充実」が 1.0%となっている。



③ 「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針

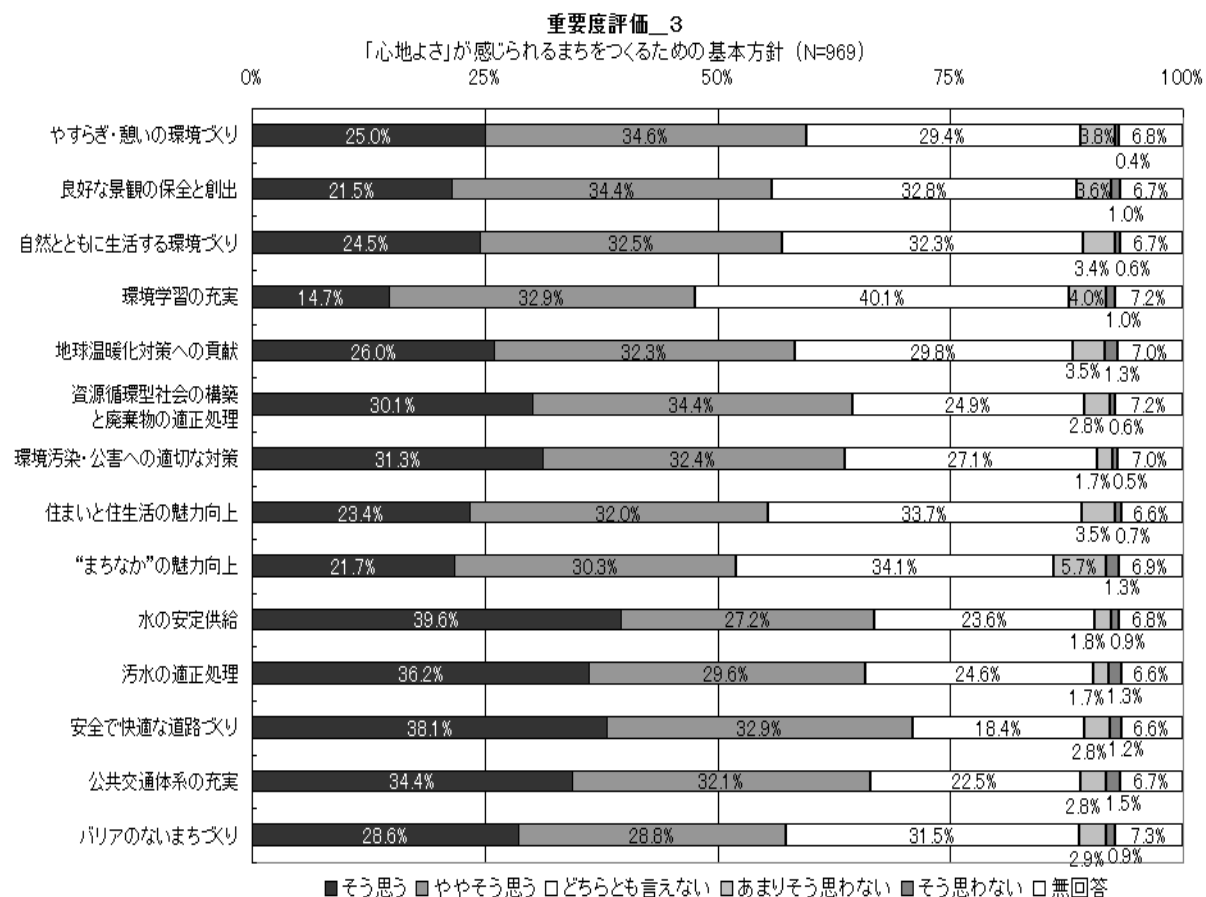
「そう思う」が最も多いのは「水の安定供給」で 39.6%、次いで「安全で快適な道路づくり」で 38.1%となっている。

「ややそう思う」が最も多いのは「やすらぎ・憩いの環境づくり」で 34.6%、次いで「良好な景観の保全と創出」「資源循環型社会の構築と廃棄物の適正処理」で 34.4%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは「環境学習の充実」で 40.1%、次いで「“まちなか”の魅力向上」で 34.1%となっている。

「あまりそう思わない」が最も多いのは「“まちなか”の魅力向上」で 5.7%、次いで「環境学習の充実」で 4.0%となっている。

「そう思わない」が最も多いのは「公共交通体系の充実」で 1.5%、次いで「地球温暖化対策への貢献」「“まちなか”の魅力向上」「汚水の適正処理」で 1.3%となっている。



④「活気」があふれるまちをつくるための基本方針

「そう思う」が最も多いのは「農業の振興」で24.6%、次いで「観光の振興」で23.3%となっている。

「ややそう思う」が最も多いのは「商業の振興」で32.6%、次いで「観光の振興」で30.8%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは「多様な交流活動の展開」で70.8%、次いで「大学などを生かしたまちづくりの展開」で53.9%となっている。

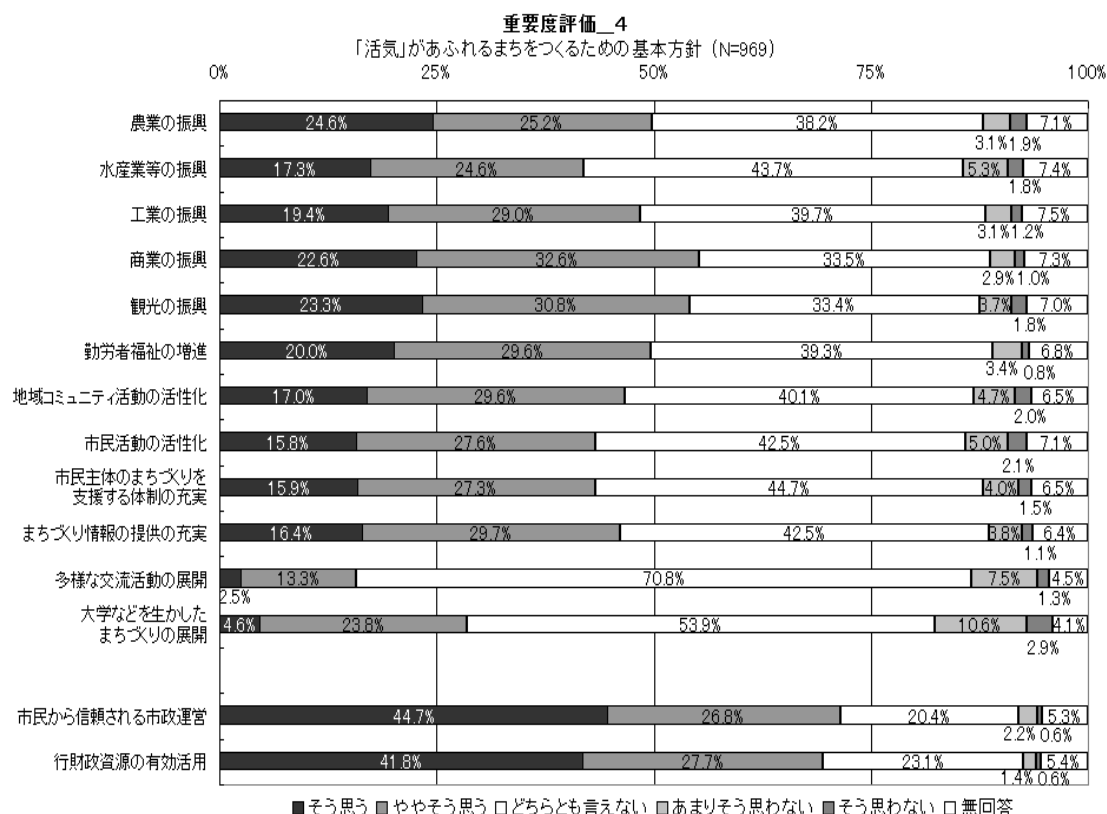
「あまりそう思わない」が最も多いのは「大学などを生かしたまちづくりの展開」で10.6%、次いで「多様な交流活動の展開」で7.5%となっている。

「そう思わない」が最も多いのは「大学などを生かしたまちづくりの展開」で2.9%、次いで「市民活動の活性化」で2.1%となっている。

【行財政マネジメント】

「市民から信頼される市政運営」において、「そう思う」が最も多く44.7%、次いで「ややそう思う」が26.8%となっている。

「行財政資源の有効活用」において、「そう思う」が最も多く41.8%、次いで「ややそう思う」が27.7%となっている。



(4) 基本方針別にみる満足度と重要度

①「人」が輝くまちをつくるための基本方針

「学校教育の充実」「青少年の健全育成」において「重要度が高く、満足度が低く」なっている。

「人権文化の醸成」「人権の擁護」においては「満足度が高く、重要度が低く」なっている。

②「安心」が得られるまちをつくるための基本方針

「犯罪のないまちづくり」「あんしんできる高齢期の生活への支援」において「重要度が高く、満足度が低く」なっている。

「市民の健康づくり」「治水対策」において「満足度が高く、重要度が低く」なっている。

③「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針

「水の安定供給」「汚水の適正処理」において「重要度が高く、満足度が高く」なっている。

「公共交通体系の充実」「バリアのないまちづくり」において「重要度が高く、満足度が低く」なっている。

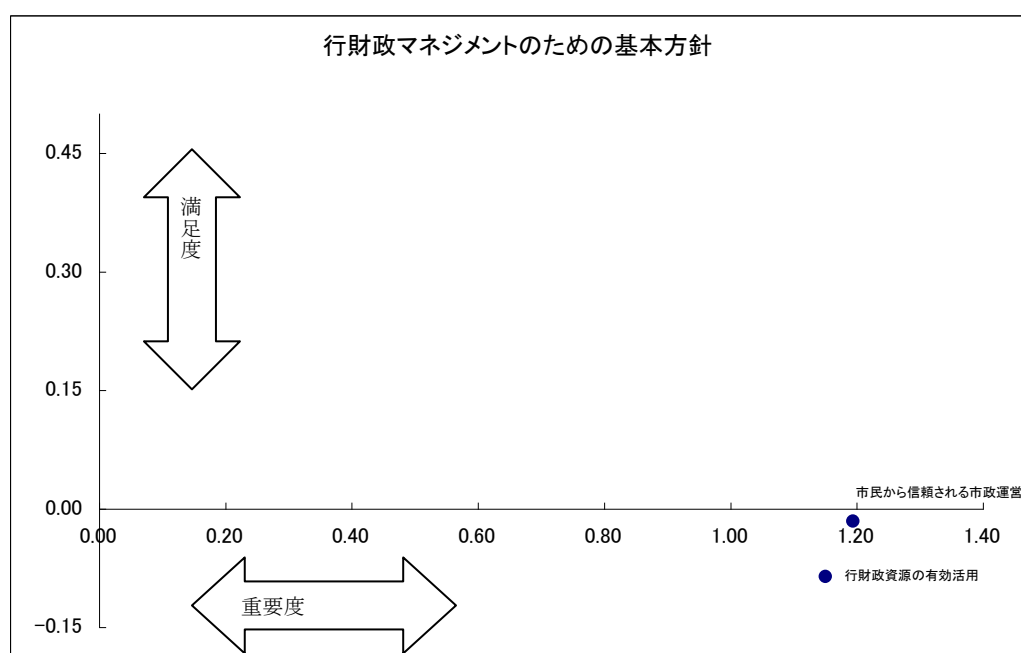
④「活気」があふれるまちをつくるための基本方針

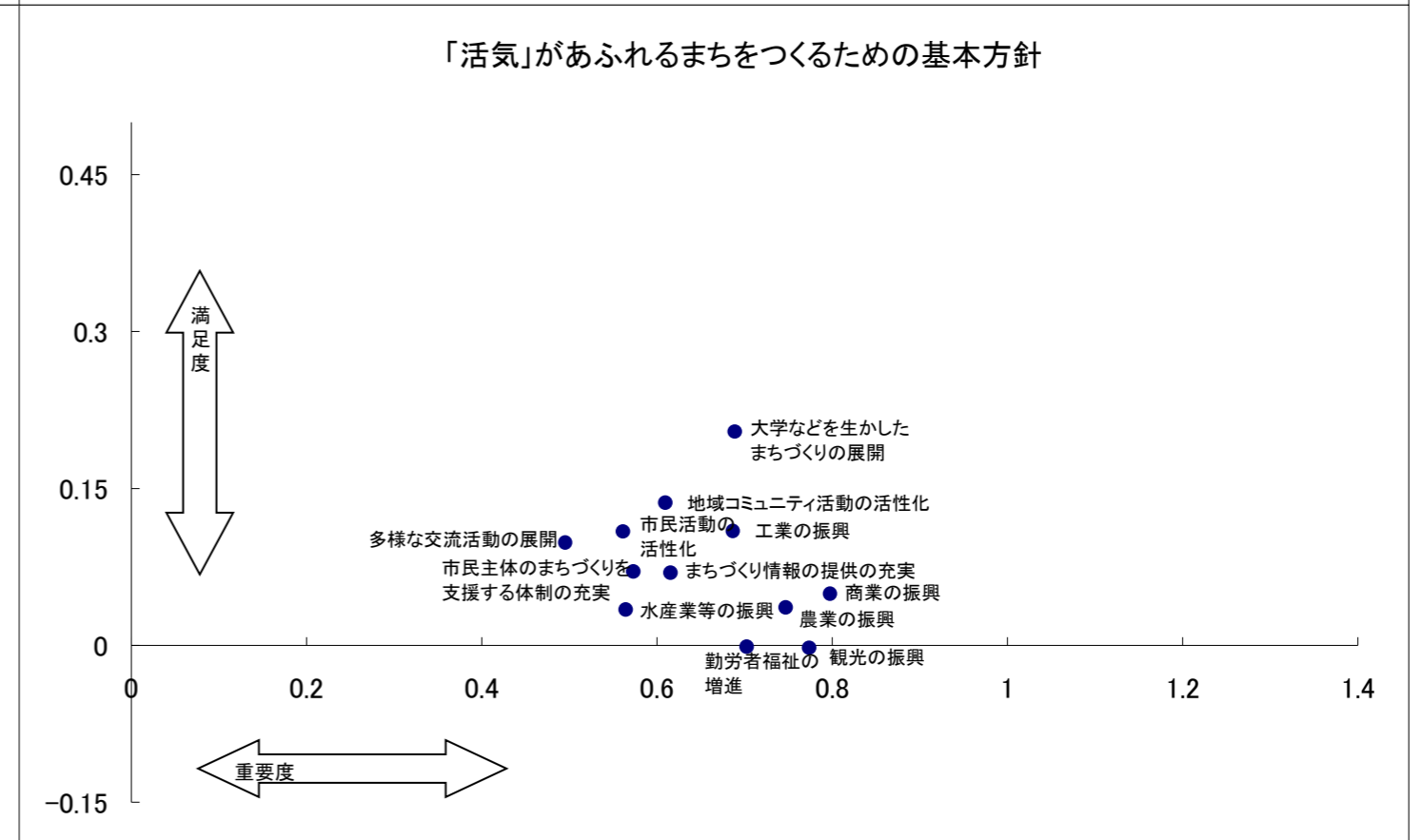
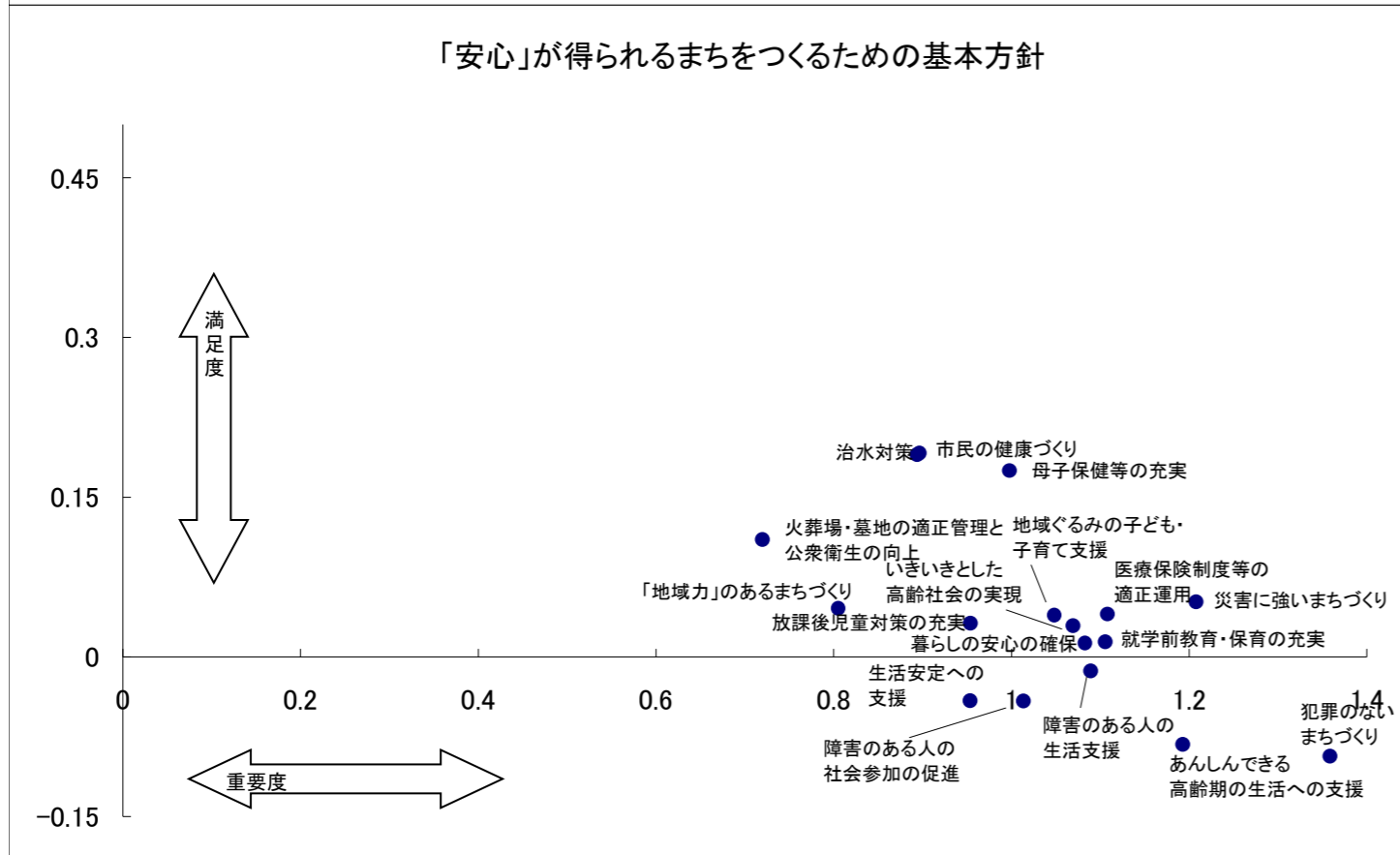
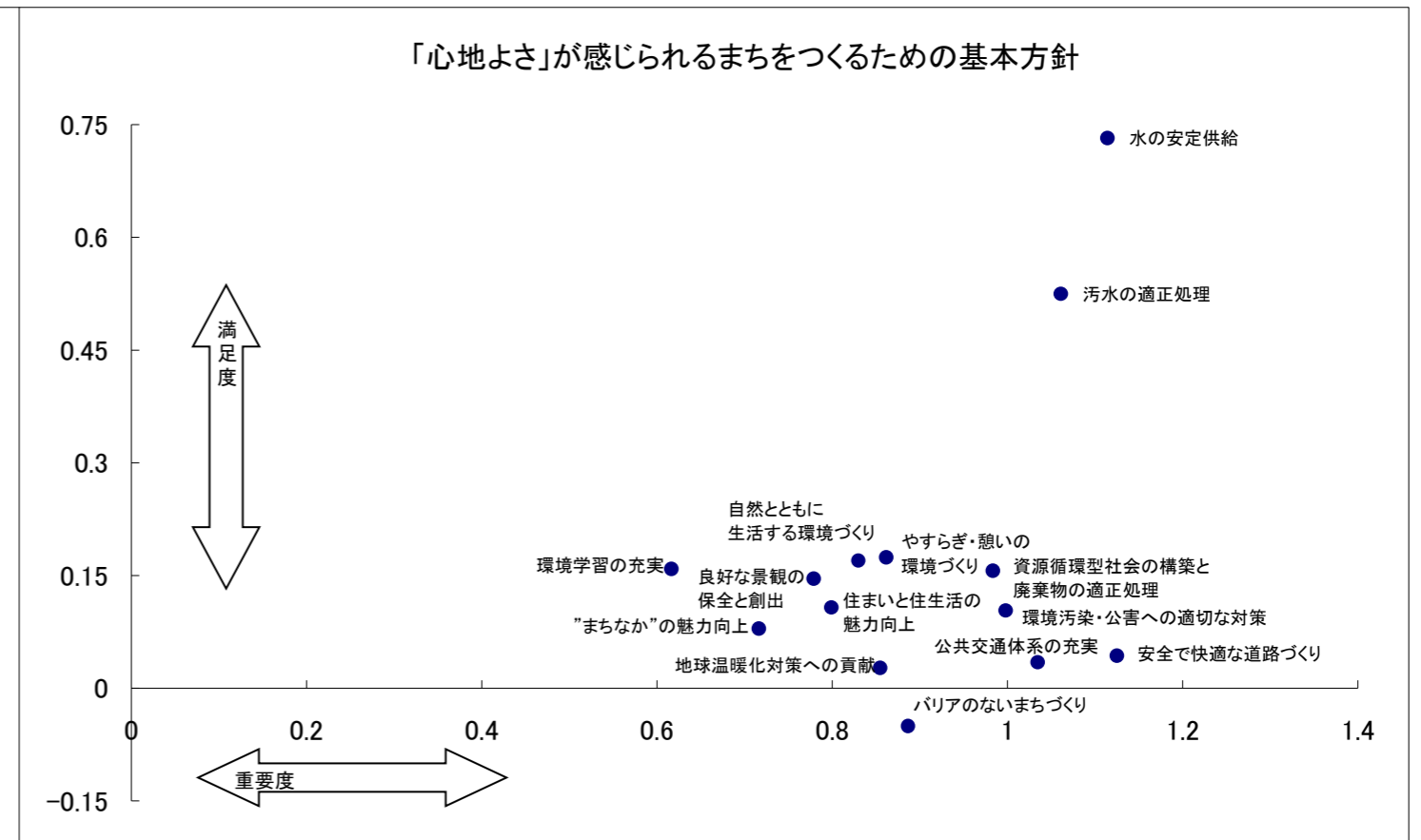
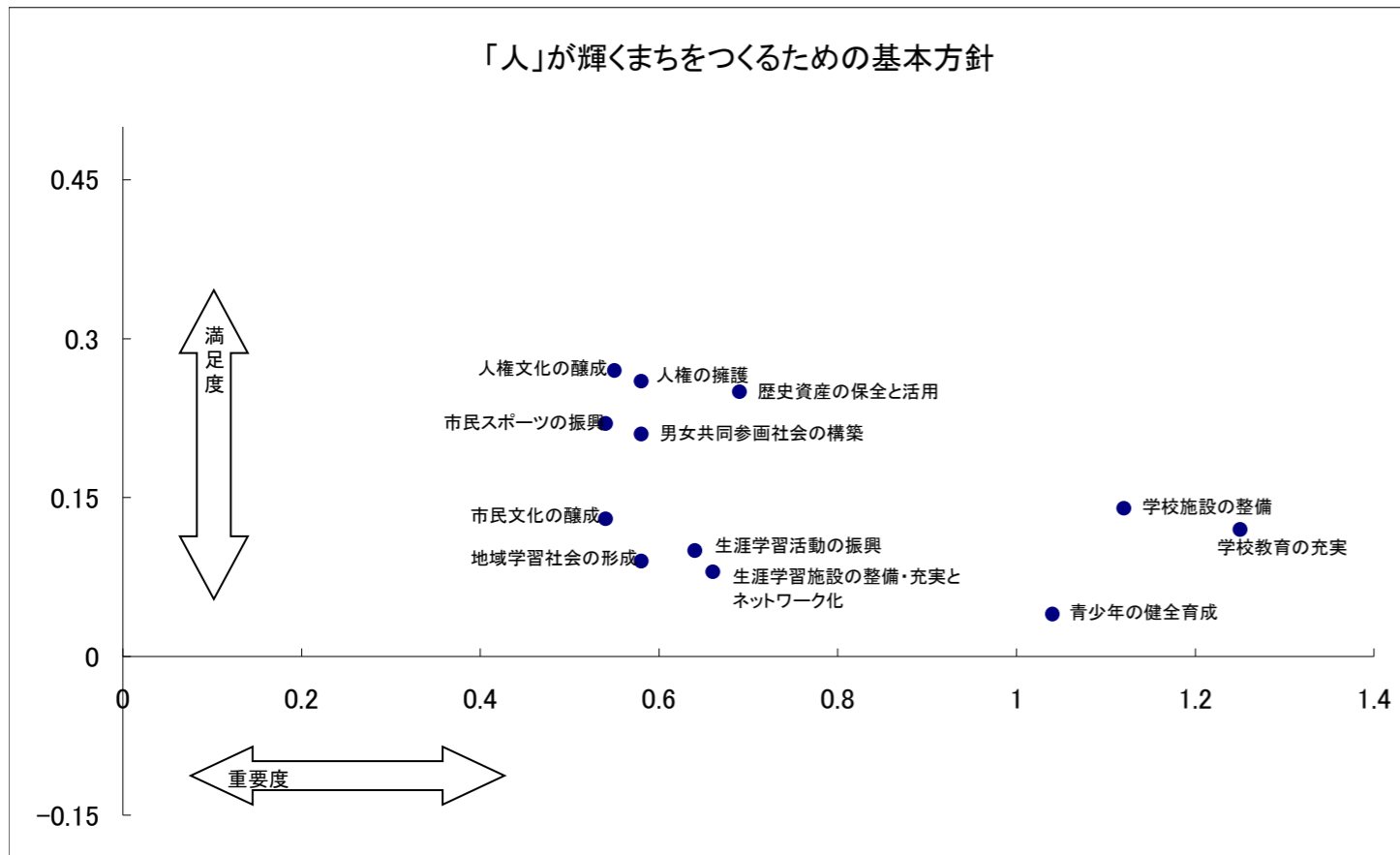
「地域コミュニティ活動の活性化」「大学などを生かしたまちづくりの展開」において「満足度が高く、重要度が高く」なっている。

「観光の振興」「勤労者福祉の増進」において「重要度が高く、満足度が低く」なっている。

⑤「行財政マネジメントのための基本方針」

「行財政資源の有効活用」において「重要度が高く、満足度が低く」なっている。





「満足度」の調査においては、「満足」を2ポイント、「やや満足」を1ポイント、「どちらとも言えない」・無回答を0ポイント、「やや不満」を-1ポイント、「不満」を-2ポイントとして、平均値を算出。
 「重要度」の調査においては、「そう思う」を2ポイント、「ややそう思う」を1ポイント、「どちらとも言えない」・無回答を0ポイント、「あまりそう思わない」を-1ポイント、「そう思わない」を-2ポイントとして、平均値を算出。

(5) まちの住み心地や日常の生活行動

① 住環境評価

「そう思う」が最も多いのは「買物をする環境が整っている」で 26.0%、次いで「自然環境が豊かである」で 18.2%となっている。

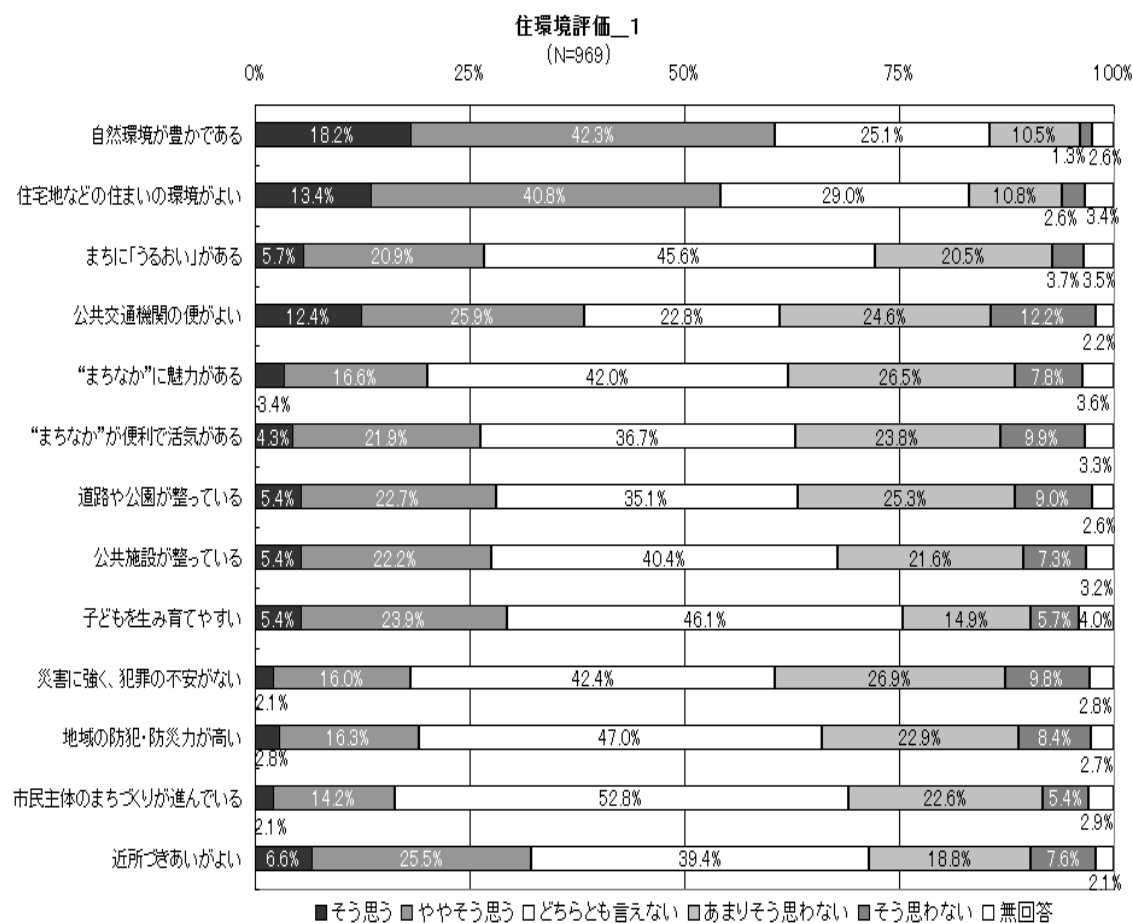
「ややそう思う」が最も多いのは「総合的に住みやすいまちである」で 45.7%、次いで「買物をする環境が整っている」で 45.5%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは「男女共同参画が進んでいる」で 64.8%、次いで「人権が尊重されるまちである」で 57.6%となっている。

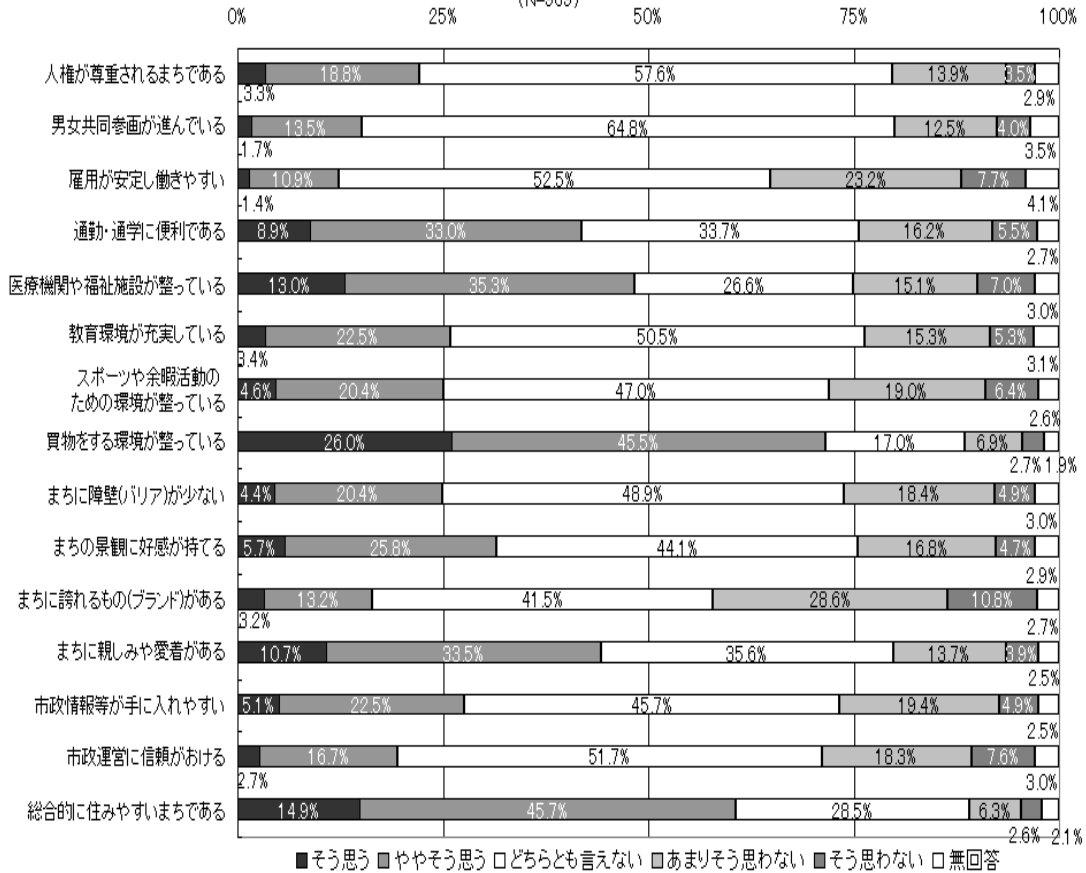
「あまりそう思わない」が最も多いのは「まちに誇れるもの(ブランド)がある」で 28.6%、次いで「災害に強く、犯罪の不安がない」で 26.9%となっている。

「そう思わない」が最も多いのは「公共交通機関の便がよい」で 12.2%、次いで「まちに誇れるもの(ブランド)がある」で 10.8%となっている。

「総合的に住みやすいまちである」についてみると、「ややそう思う」が 45.7%と最も多く、次いで、「どちらとも言えない」が 28.5%、「そう思う」が 14.9%となっている。



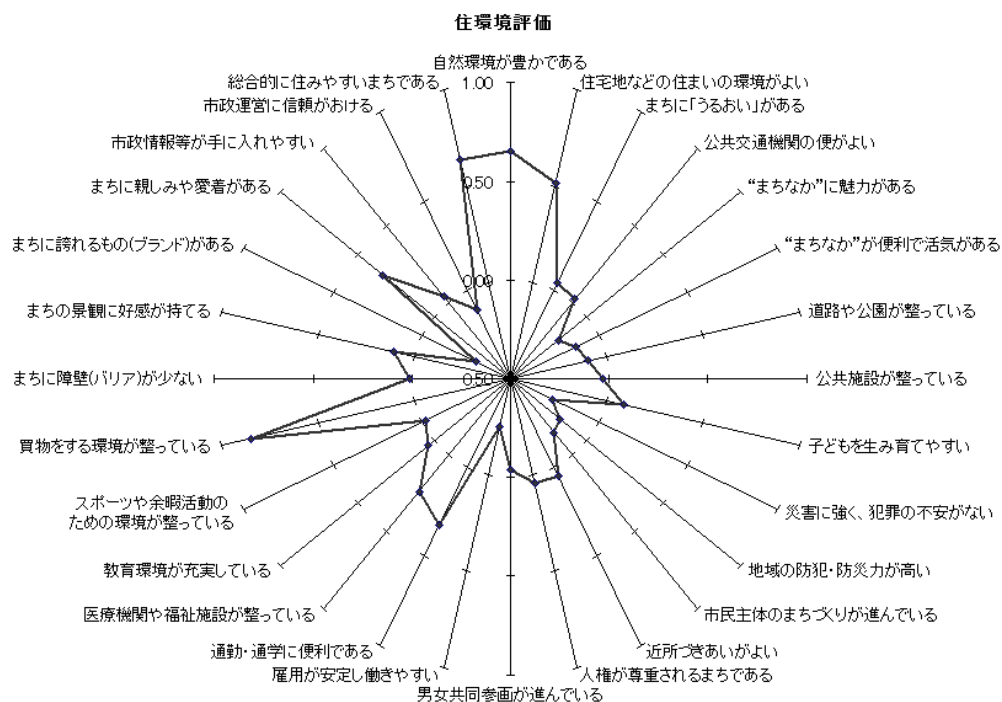
住環境評価_2
(N=969)



【加重平均】

「買物をする環境が整っている」「自然環境が豊かである」「総合的に住みやすいまちである」「住宅地などの住まいの環境がよい」において評価が高くなっている。

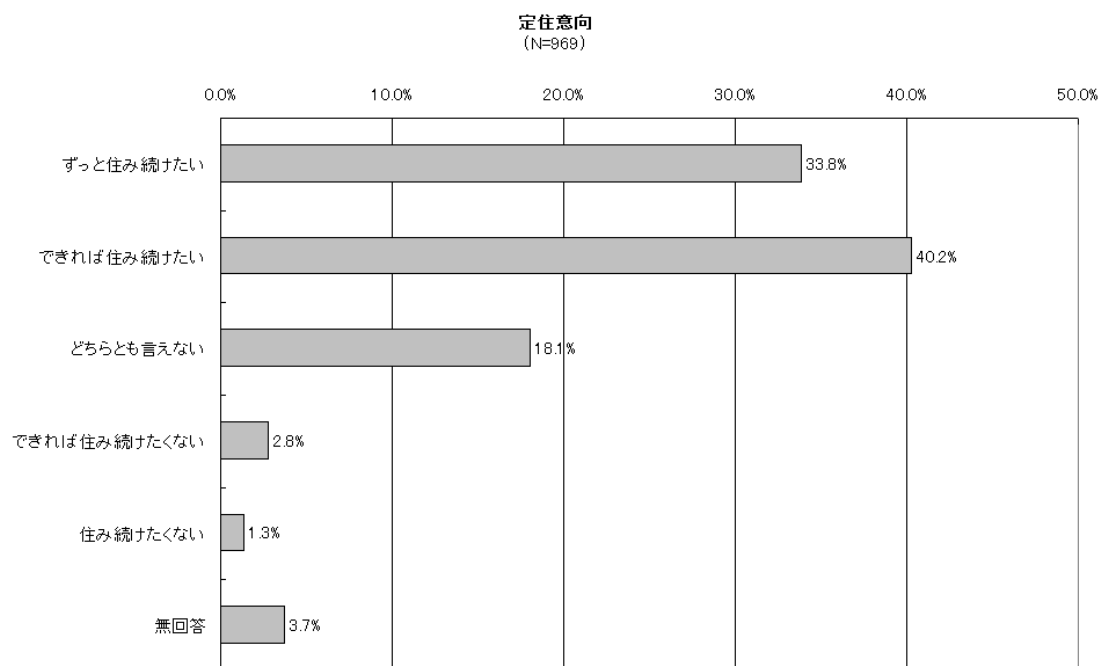
「まちに誇れるもの（ブランド）がある」「雇用が安定し働きやすい」においては評価が低くなっている。



「そう思う」を2ポイント、「ややそう思う」を1ポイント、「どちらとも言えない」・無回答を0ポイント、「あまりそうは思わない」を-1ポイント、「そうは思わない」を-2ポイントとして全体の平均値を算出

②定住意向

「できれば住み続けたい」が最も多く 40.2%、次いで「ずっと住み続けたい」が 33.8%となっている。



③ 日常の行動

「地元の農産物を購入するよう心掛けている」では、「ややそう思う」が最も多く 34.3%、次いで「どちらとも言えない」が 26.4%となっている。

「地元の水産物を購入するよう心掛けている」では、「どちらとも言えない」が最も多く 38.8%、次いで「ややそう思う」が 23.9%となっている。

「地球温暖化対策に取り組んでいる」では、「ややそう思う」が最も多く 38.3%、次いで「どちらとも言えない」が 36.4%となっている。

「庭やベランダなどの緑化に努めている」では、「ややそう思う」が最も多く 32.9%、次いで「どちらとも言えない」が 24.9%となっている。

「町内会の活動に参加している」では、「ややそう思う」が最も多く 28.3%、次いで「どちらとも言えない」が 25.8%となっている。

『男は仕事、女は家庭』という考え方に賛成である」では、「どちらとも言えない」が最も多く 28.4%、次いで「あまりそう思わない」が 23.9%となっている。

「週に1回(30分以上)は運動をしている」では、「そう思う」が最も多く 32.6%、次いで「ややそう思う」が 20.1%となっている。

